

この度は、お買上げ下さいまして誠にありがとうございます。

TAKUBO タクボ自転車置場

- SP11GTNA・SP11GTNB (スパン2100mm)

SP12GTNA・SP12GTNB (スパン2450mm)

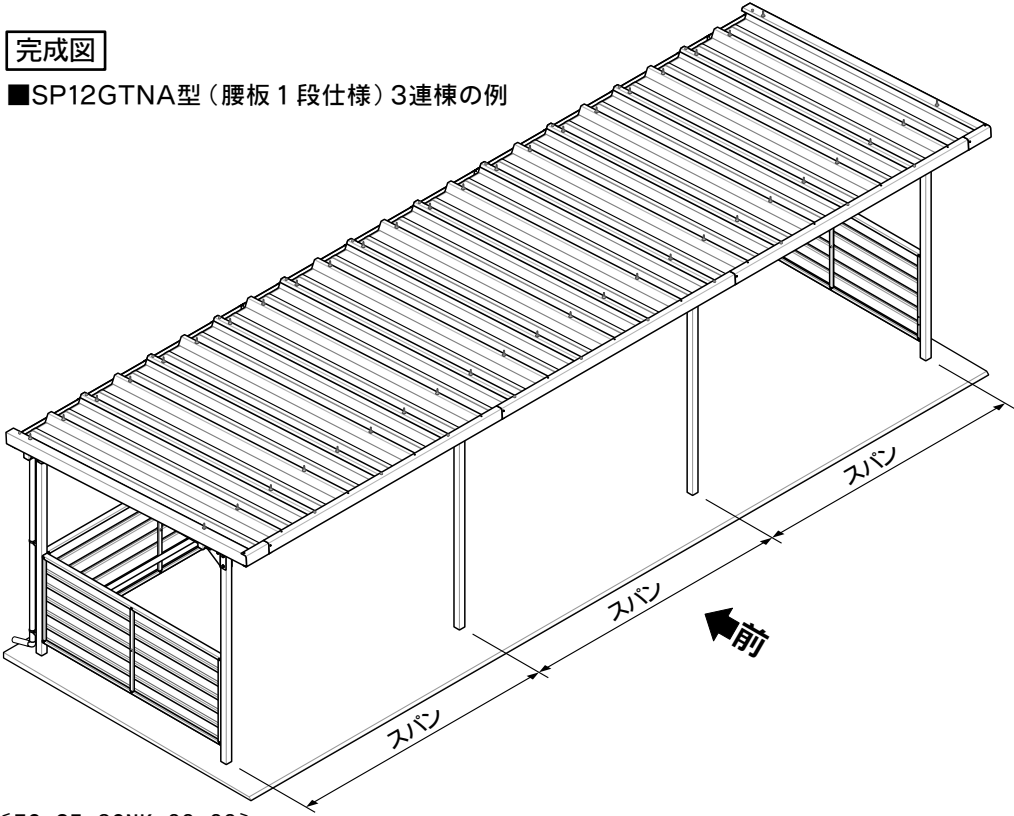
SP13GTNA・SP13GTNB (スパン2800mm)
- GTNA型【腰板1段仕様】
GTNB型【腰板2段仕様】
共通 組立説明書

- 組立前に、この組立説明書と別添の取扱説明書・基礎施工図／部品明細を、よく読んで組み立ててください。
また、これらの説明書は、組立終了後も必ず大切に保管してください。
- この組立説明書は、3連棟 (SP12GTNA-03:スパン2450mm) について主に説明していますが、連棟数およびスパンが違ってても組立方法は同じです。
- 組立のとき、絶対に自転車置場の上に乗って作業をしないでください。
- 屋根板の固定には、M8ゆるみ止めナットを必ず使用してください。(他の部品は通常のナットです。)
- 組立前に別添の部品明細で部品をご確認ください。(基礎施工図のうら面が部品明細になっています。)

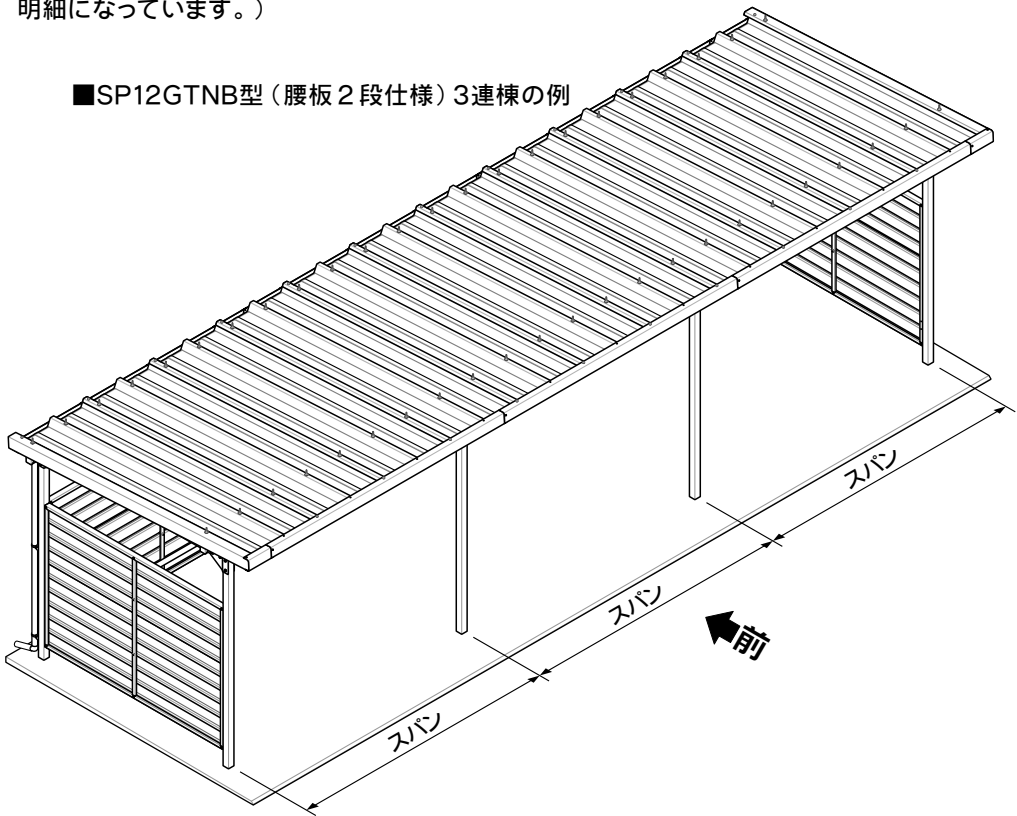
Vol.1

完成図

■SP12GTNA型 (腰板1段仕様) 3連棟の例



■SP12GTNB型 (腰板2段仕様) 3連棟の例



[EC-25-SGNK-00-00]

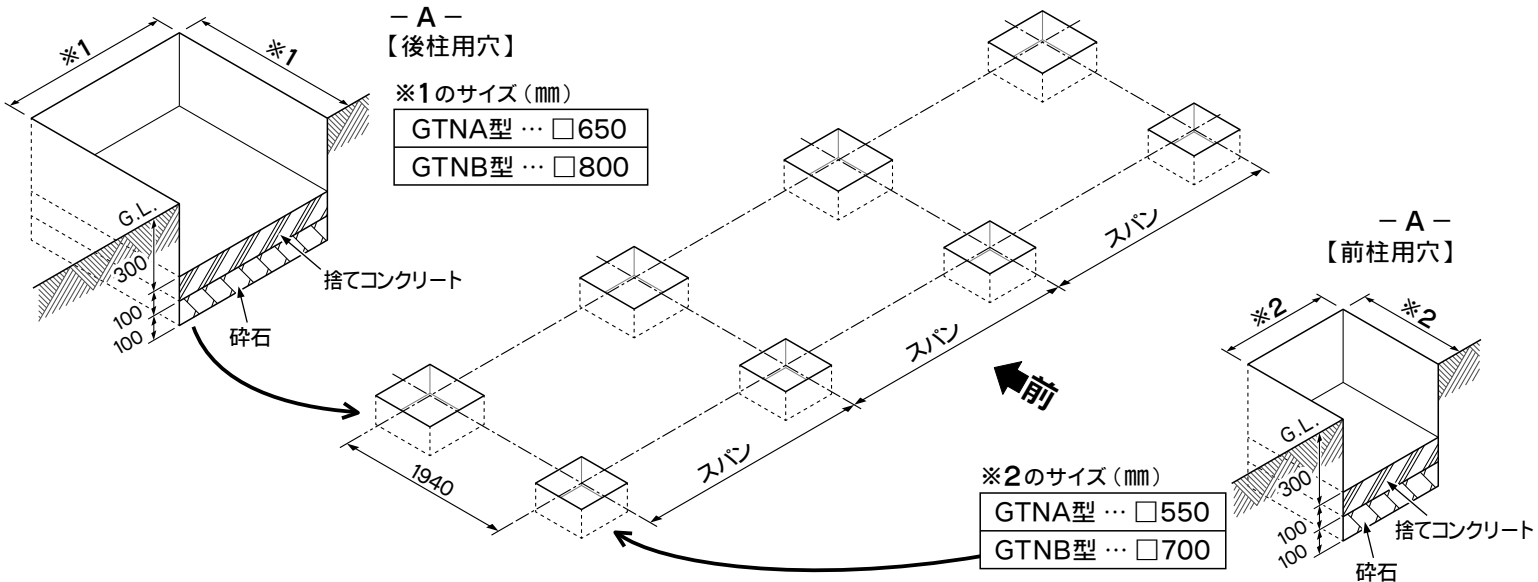
1

【基礎打設作業】

- 基礎は別途施工です。別添の基礎施工図を参照してください。
- 柱埋め込み位置を出し、柱の基礎穴を掘り、基礎穴底面に 砕石・捨てコンクリート を入れて、G.L.下 300mmの位置でレベルを出します。

－ A － 参照

- 柱位置の穴のコンクリート詰めと土間コンクリート打ちは、本体の組立が終わってから行います。
- 基礎間の寸法の位置決めは、正確に行ってください。
- コンクリートの養生は十分行ってください。



2

穴あけ加工

【腰板の穴あけ加工】

- 腰板の図 A・B 部には、穴あけが必要です。現場にて $\phi 8$ mm の穴をあけてください。
- 腰板左右・腰板後には、上下の区別がありません。
- 腰板2段仕様専用の腰板右上・腰板後上は上下を間違えないように加工してください。

－ A・B － 参照

腰板2段仕様 専用

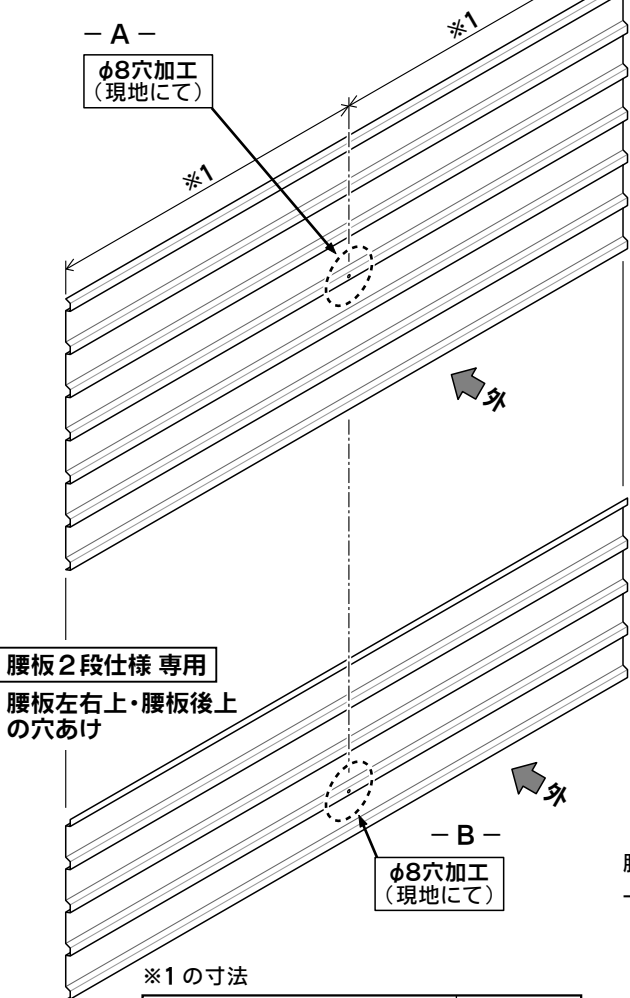
【柱の穴あけ・タップ加工】

- 柱後(全種)と柱前左右には、腰板1段用のネジ穴しかないので、腰板2段用にネジ穴を追加する必要があります。
- 腰板1段用のネジ穴の500mm上に、 $\phi 5$ mmの下穴をあけ、M6のタップ加工をしてください。

－ C － 参照

穴あけ・タップ加工後の切り粉は、ていねいに取り除いてください。
サビの原因になります。

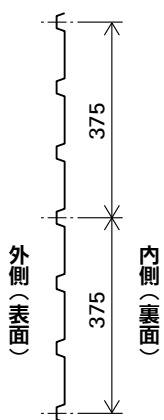
腰板1段仕様・2段仕様 共通
腰板左右・腰板後の穴あけ



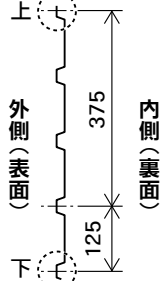
腰板2段仕様 専用
腰板右上・腰板後上の穴あけ

※1の寸法	
腰板左右・腰板右上	930mm
腰板後・腰板後上(スパン2100)	1010mm
腰板後・腰板後上(スパン2450)	1185mm
腰板後・腰板後上(スパン2800)	1360mm

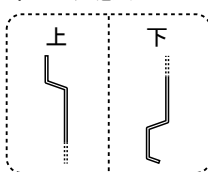
－ A －
【断面図】



－ B －
【断面図】

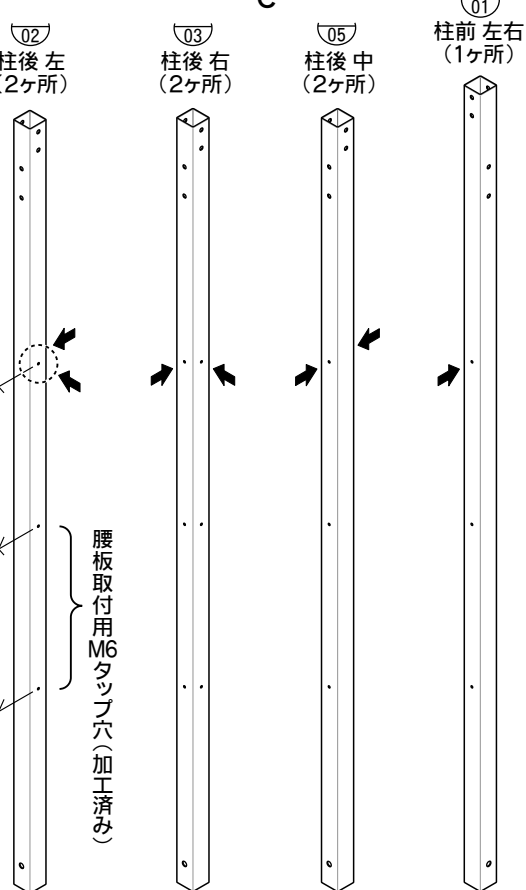


腰板右上・腰板後上は上下にご注意ください。



腰板2段仕様 専用 柱の穴あけ・タップ加工

腰板縦枠を取り付けるネジ穴を追加してください。
(下図 ← の位置)



● $\phi 5$ mmの下穴をあけ
M6のタップ加工を
してください。

③ 柱と梁の組立

【桁取付プレートの取付】

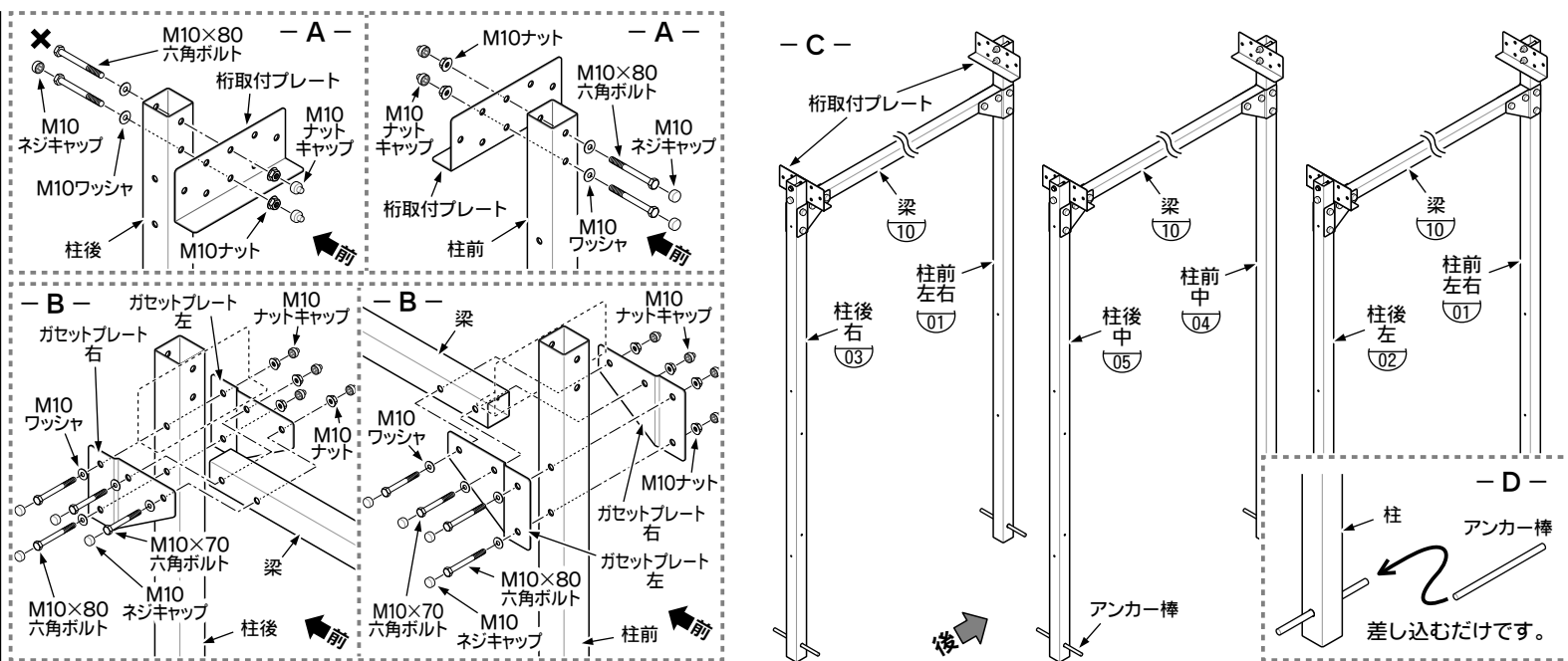
- 柱の上部にM10×80六角ボルト・M10ワッシャ・M10ナットで桁取付プレートを取り付けてください。
※柱の前後とボルトを差し込む方向に注意して取り付けてください。 - A - 参照

【柱と梁の連結】

- 柱前・柱後・梁をガセットプレートで連結してください。柱の部分にはM10×80六角ボルト、梁の部分にはM10×70六角ボルトを使用してください。 - B - 参照
- ※柱前と柱後の組み合わせは下記の通りです。
柱前左右 ↔ 柱後左・柱前左右 ↔ 柱後右
柱前中 ↔ 柱後中 - C - 参照

図は立てた状態になっていますが、安全のため、横に寝かせて組み立ててください。

- ここで使用するすべてのM10ボルトの頭とM10ナットを、M10ネジキャップとM10ナットキャップでカバーしてください。
※ただし、後柱のいちばん上のボルトの頭だけは、ネジキャップを付けなくてください。
(-A-左:×印の所)
- すべての柱の下部に、アンカー棒を差し込んでください。 - D - 参照



桁は、注意シールが添付されているものを、最前列に取り付けてください。



④ 柱立てと桁の取付

【桁の組立】

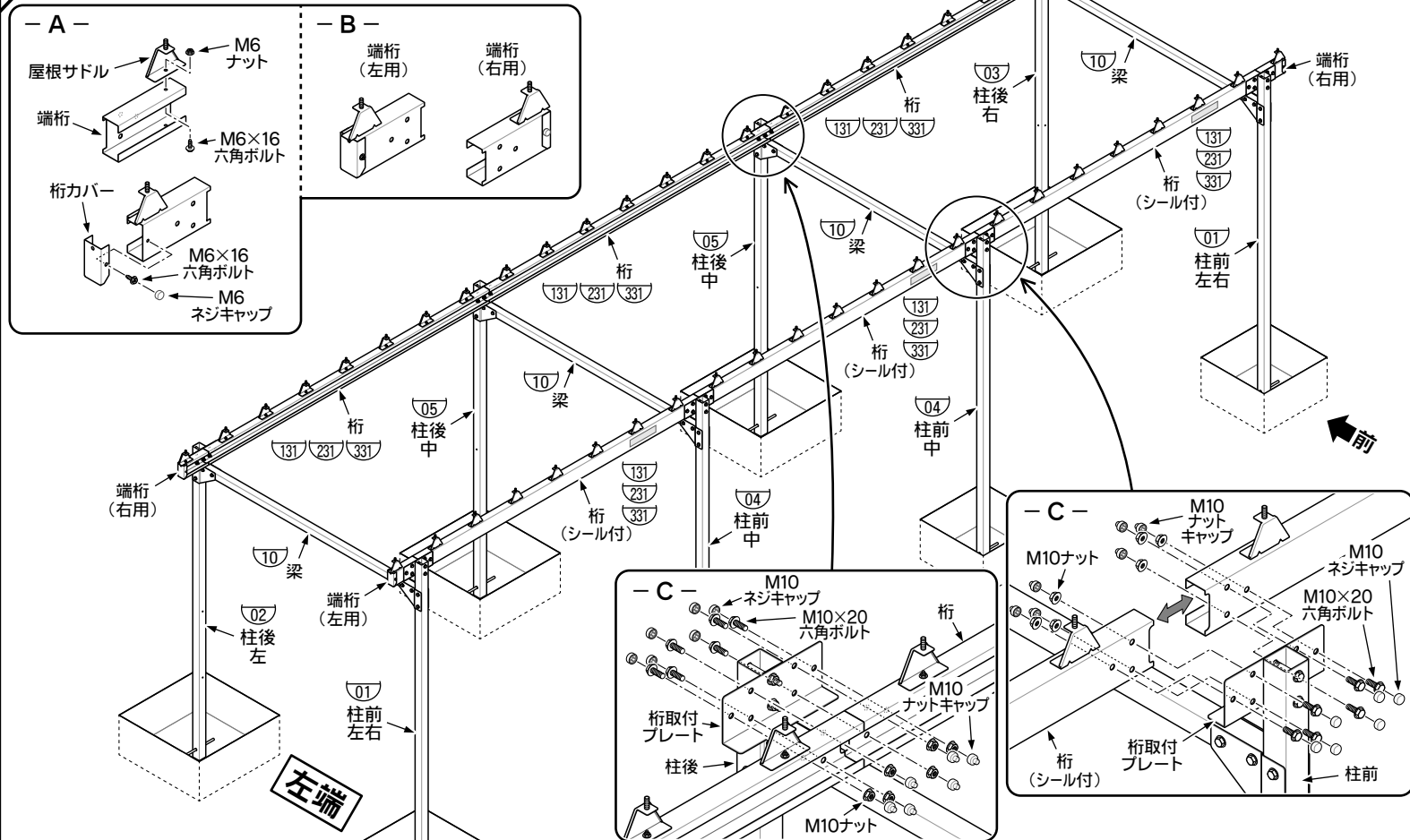
- まず、桁・端桁に屋根サドルをM6×16六角ボルトとM6ナットで取り付けてください。
※端桁は屋根サドルの取付位置によって、左右一対を2セット作ります。
- 端桁に桁カバーをM6×16六角ボルトで取り付け、ボルトの頭をM6ネジキャップでカバーしてください。 - A・B - 参照

【桁の取付】

- ③で組み立てた柱と梁の連結材を、左端から順に起こしながら、M10×20六角ボルトとM10ナットで、桁と端桁を取り付けてください。 - C - 参照

各柱の水平・垂直や、柱間のレベルを確認してください。

- 確認後、すべてのM10ボルトの頭とM10ナットを、M10ネジキャップとM10ナットキャップでカバーしてください。



⑤ 腰板の組立

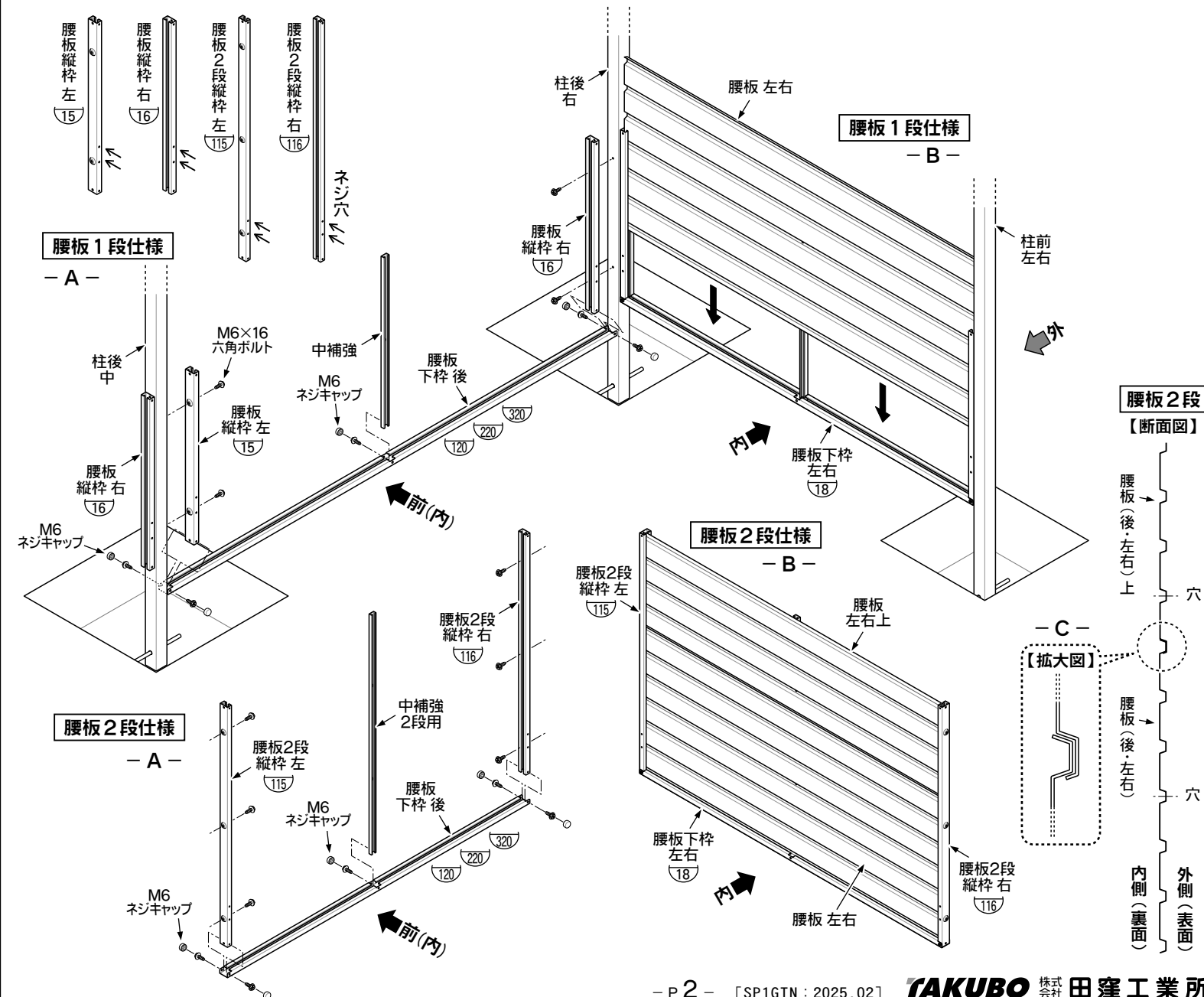
【腰板の組立.1】

- まず、柱に腰板縦枠をM6×16六角ボルトで取り付けてください。(このボルトにはネジキャップは付けません。)
※ネジ穴が2個並んだ部分(図中←印)を、必ず内側の下側にして取り付けてください。
- 次に、M6×16六角ボルトで腰板下枠を取り付け、中補強を外側だけ取り付けおきます。(このボルトの頭は、M6ネジキャップでカバーしてください。)
- ※腰板上枠と腰板下枠は形状が似ていますが、腰板下枠の底には水抜き用の穴があります。 - A - 参照
- 腰板を上から差し込んでください。 - B - 参照

腰板には表裏がありますので、必ず表面を外側に向けて差し込んでください。

腰板2段仕様 専用

- 必ず腰板上を上にして、2枚重ね合わせて差し込んでください。
※重ね合わせの部分は、腰板上を外側にしてください。 - C - 参照



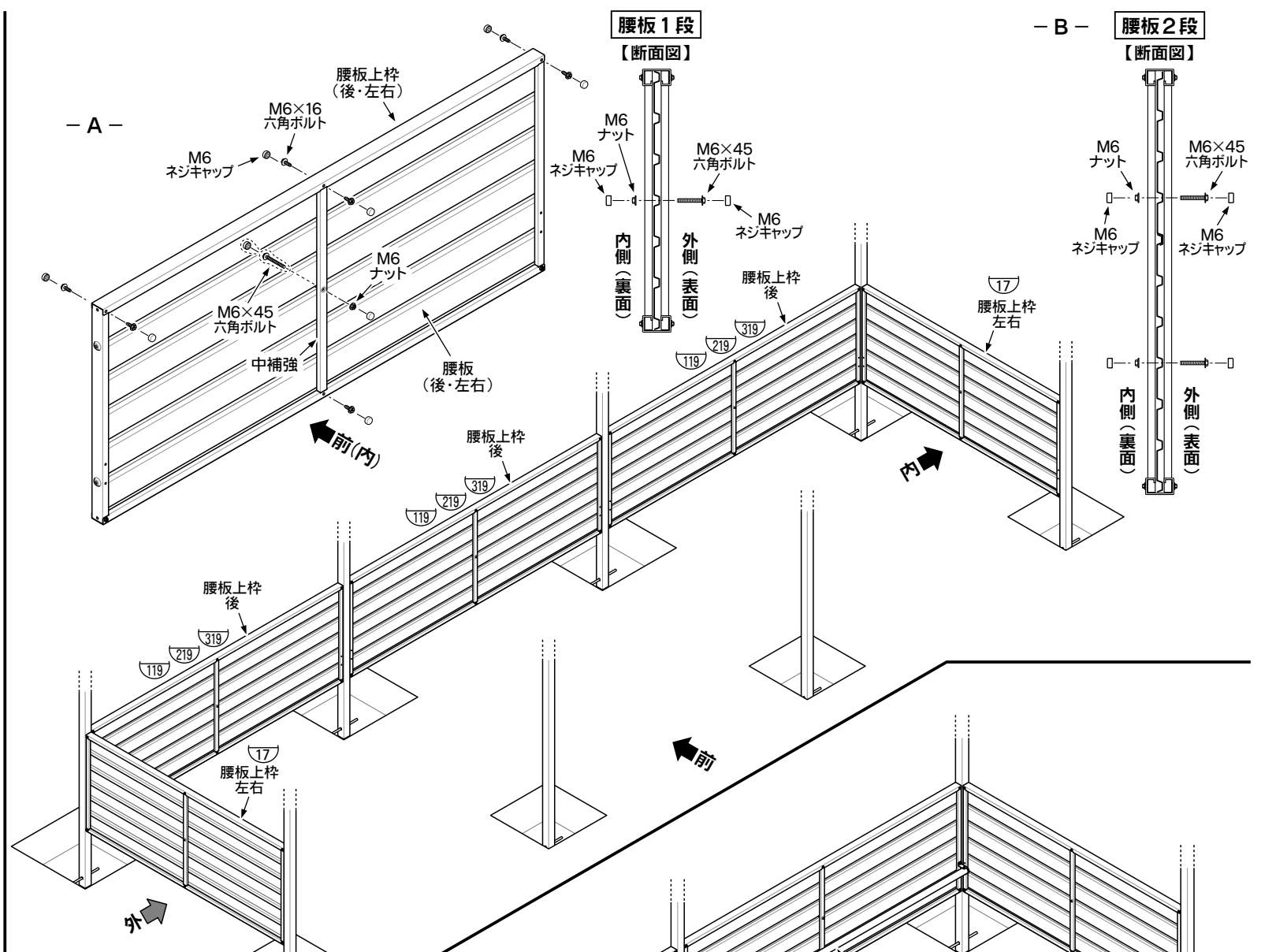
5 腰板の組立 (つづき)

【腰板の組立.2】

- 内側の中補強を取り付けて、腰板の中央に外側からM6×45六角ボルトを差し込み、M6ナットで固定してください。 - A - 参照
- 腰板上枠を、M6×16六角ボルトで取り付けてください。 - A - 参照

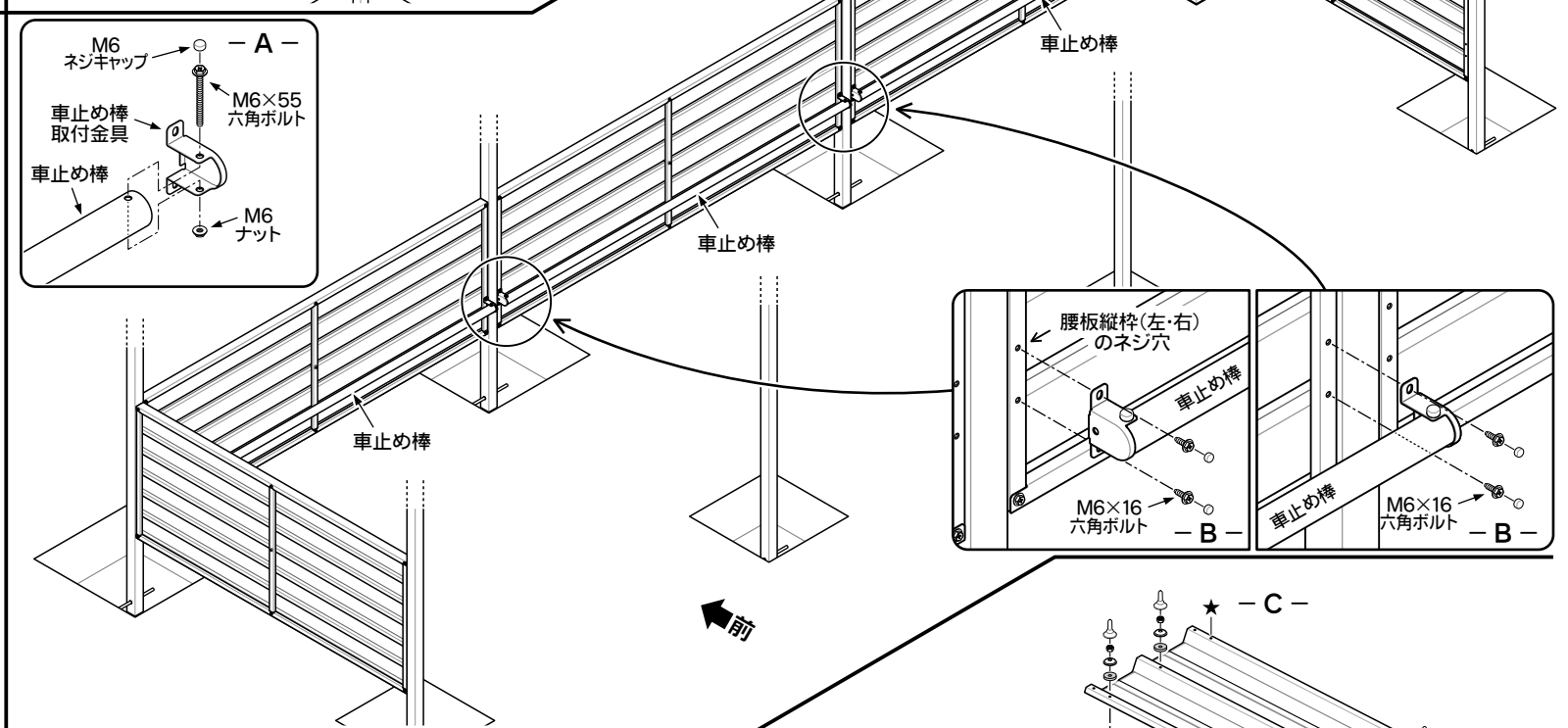
腰板2段仕様 専用

- M6×45六角ボルトとM6ナットで2ヶ所固定してください。 - B - 参照
- ここで使用したM6ボルトの頭とM6ナットを、M6ネジキャップでカバーしてください。



6 車止め棒の取付

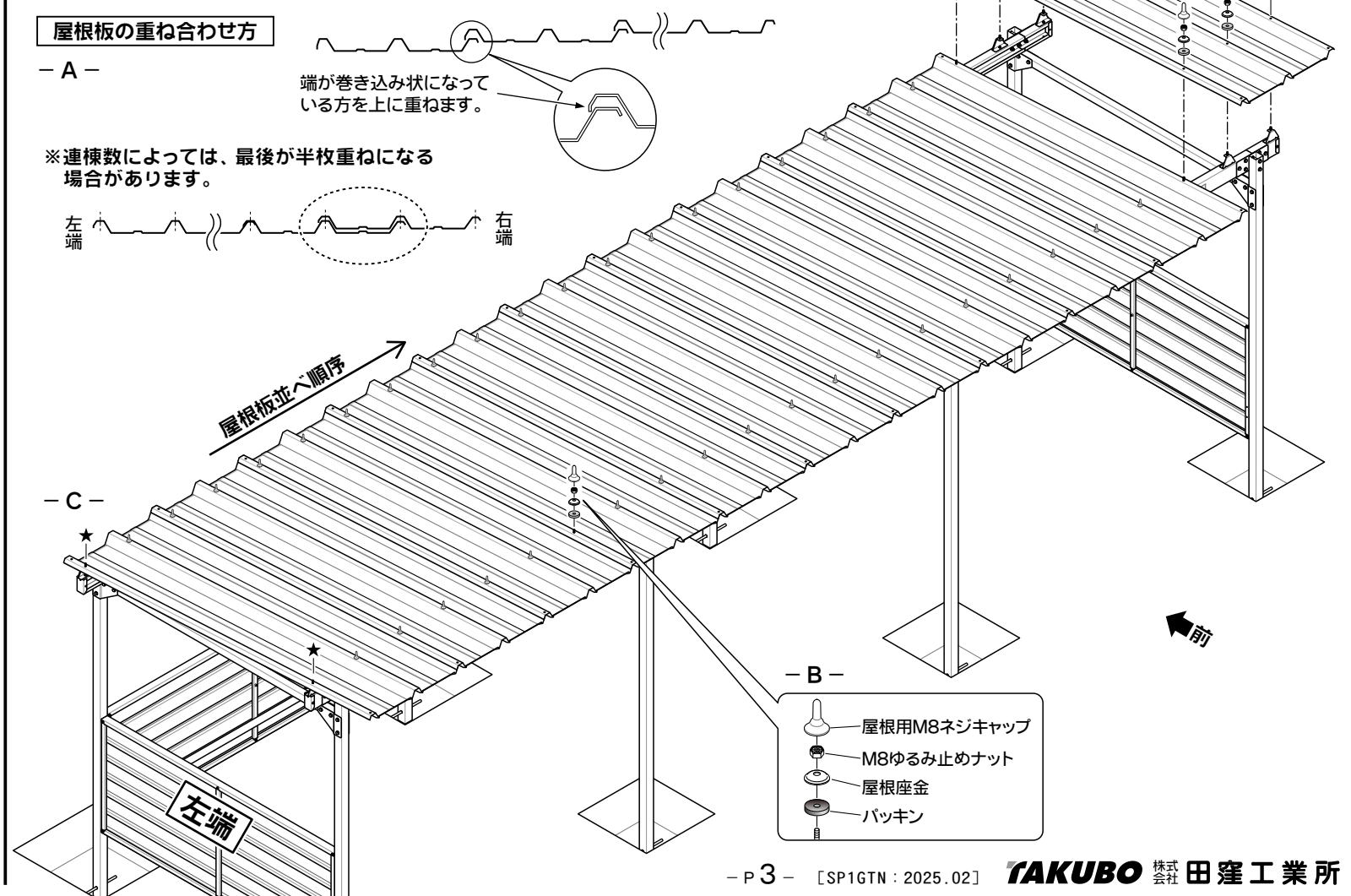
- 車止め棒の両端に、車止め棒取付金具をM6×55六角ボルトとM6ナットで取り付けてください。 - A - 参照
 - 腰板後の縦枠に、M6×16六角ボルトで取り付けてください。 - B - 参照
 - ここで使用したM6ボルトの頭を、M6ネジキャップでカバーしてください。
- ※腰板左右には取り付けません。



7 屋根板の取付

- 屋根板は、前から見て左端より順に並べていきます。 - A - 参照
 - 屋根板は、パッキン・屋根座金とM8ゆるみ止めナットで固定し、屋根用M8ネジキャップでカバーしてください。 - B - 参照
- ※左右両端の部分(★印)は、後で左・右化粧板と一緒に固定しますので、この時点では止め付けしないでください。 - C - 参照

屋根板の固定には、必ずゆるみ止めナット (M8) を使用し、最後に屋根用M8ネジキャップ (M8) でカバーしてください。



8 化粧板の取付

【左・右化粧板の取付】

- 左・右化粧板を屋根板にかぶせて、パッキン・屋根座金・M8ゆるみ止めナットで固定し、屋根用M8ネジキャップでカバーしてください。
－ A － 参照

【前面化粧板の取付】

- 前面化粧板左・前面化粧板中・前面化粧板右を、左端より順に取り付けます。
- 前面化粧板左の左端は側面化粧板左に、前面化粧板右の右端は側面化粧板右に、また、前面化粧板どうしの連結部分も、それぞれM5×10トラスネジで止め付けてください。
－ B・C・D － 参照
- 前面化粧板中は、屋根板に取り付けるための穴が250mmピッチでありますが、屋根板の穴と合う部分のみ、M6×20六角ボルトとM6ナットで取り付け、ボルトの頭をM6ネジキャップでカバーしてください。
〔図中 ◎ 印の所 － E － 参照〕

【軒受受取付金具の取付】

- 屋根板と左・右化粧板の後側に、軒受受取付金具をM6×20六角ボルトで取り付け、ボルトの頭をM6ネジキャップでカバーしてください。（屋根板の穴の部分のみ）
〔図中 ☆ 印の所 － F － 参照〕

9 軒樋・たて樋の取付

【軒樋の取付】

- 左端に取り付ける軒樋の左端と、軒樋右の右端に、軒樋止まり左・右をM6×16六角ボルトで取り付け、連結部分をコーキングしてください。
－ A・C － 参照
- たて樋を取り付ける位置の雨水落し穴に落し口を、取り付けない位置には膜付グロメットを差し込んでください。
－ A・B・C － 参照
- 向かって左端から取り付けていきます。まず、軒樋に軒樋受金具A・BをM6×16六角ボルトで仮止めし、⑨で取り付けておいた軒受受取付金具にM6×16六角ボルトでネジ止めしてください。（仮止めしていたボルトをしっかりとめつけてください。）
－ A・B・C・D － 参照
- 連結部分にコーキングを塗ってから、次の軒樋を連結してください。
－ B・C － 参照

ここで使用するM6×16六角ボルトの頭はすべてM6ネジキャップでカバーしてください。

軒樋の連結部および、軒樋と軒樋止まりの連結部は、内側をコーキングしてください。

【たて樋の取付】

- たて樋は、長めのものが入っています。ノコギリなどで必要な長さに切断してください。（残りは - G - で使用します。）
- 後柱に丸樋サドル取付台とたて樋取付スペーサーを、M4×45トラスタッピンネジで取り付けます。（1本の柱に3ヶ所ずつ）
－ E － 参照
- たて樋に丸樋サドルを上から通します。（1本あたり3個ずつ）
－ F － 参照
- たて樋を軒樋の落し口に差し込み、たて樋に通しておいた丸樋サドルを、丸樋サドル取付台に押し込みます。
－ F － 参照
- たて樋の下部に、エルボを取り付けます。
－ G － 参照

たて樋と各たて樋部品は、必ず接着剤で固定してください。

※柱後左・右に、たて樋を取り付けない場合は、φ3.7mm穴を穴ふさぎシールでふさいでください。

10

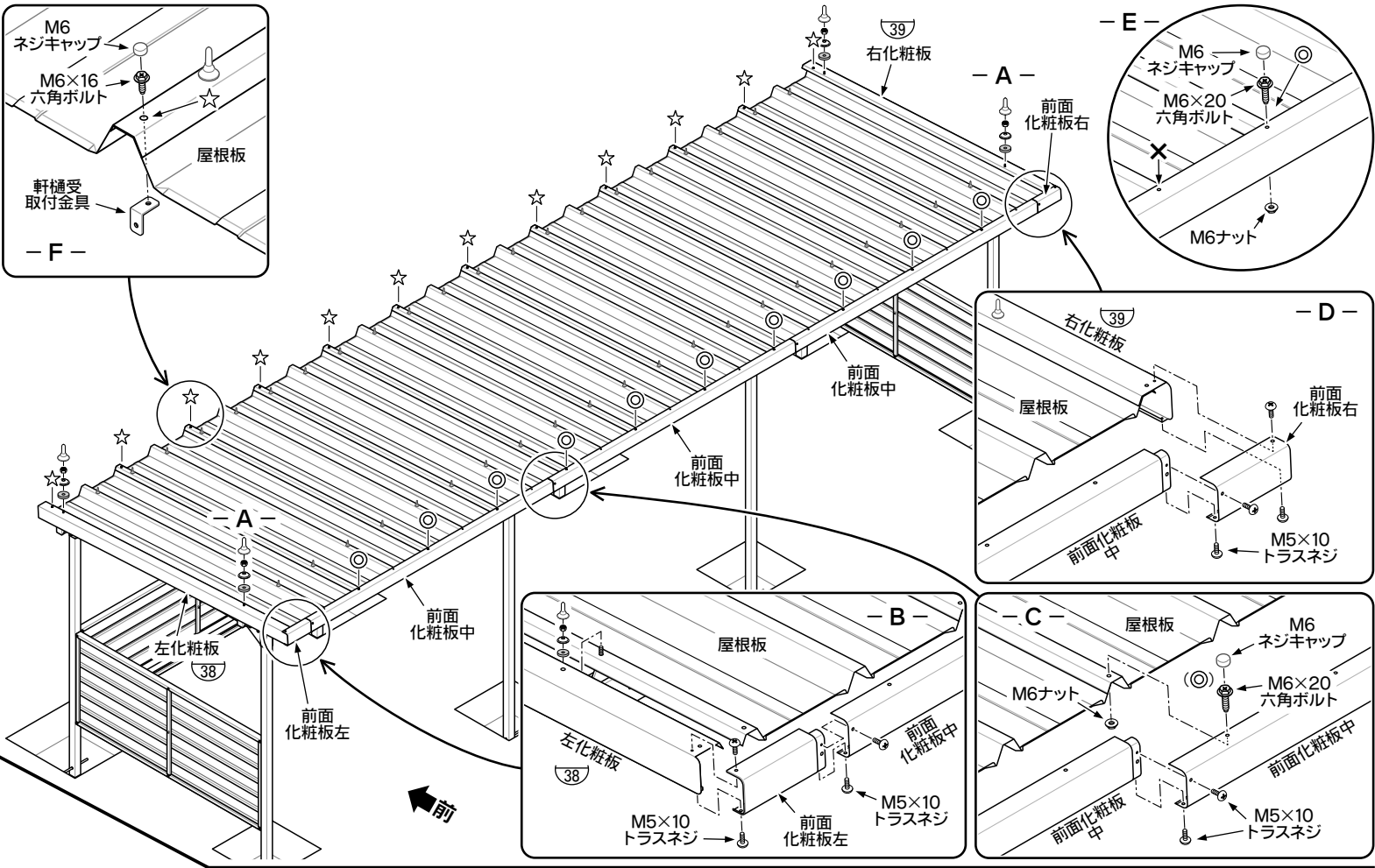
【ネームプレートの取付】

- 組立が終わりましたら、ネームプレートの裏側の紙をはがして、右図の位置に貼り付けてください。
－ A － 参照

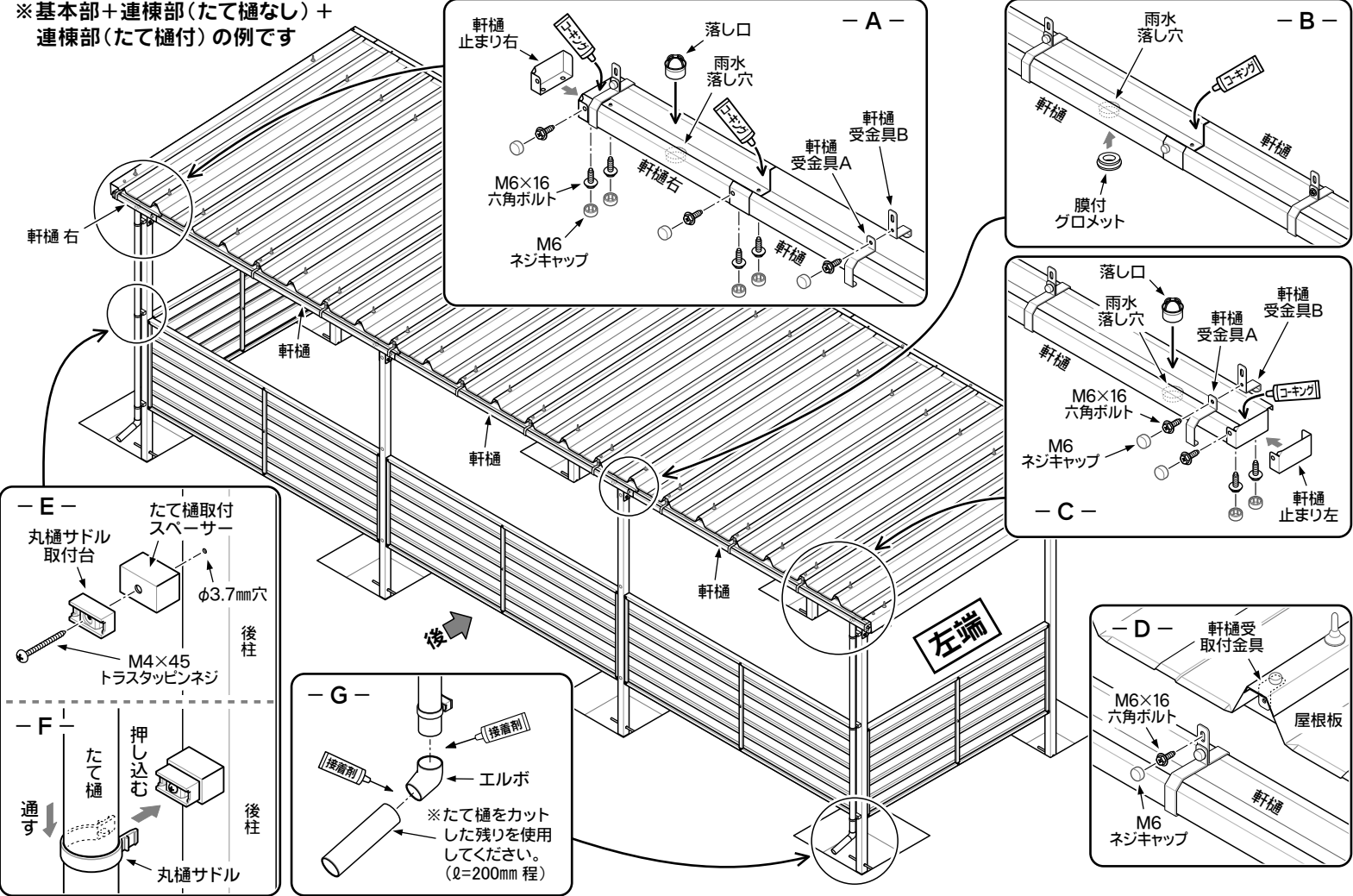
組立が終わりましたら、もう一度各部の水平・垂直を確かめ、ネジをしめ付けてください。

【基礎・土間の施工】

- 柱位置の穴に、コンクリートを詰めてください。
- 同時に、土間コンクリート打ちを行います。



※基本部+連棟部（たて樋なし）+連棟部（たて樋付）の例です



基本部+連棟部 組合せ例 (K…基本部, LN…連棟部・たて樋なし, L…連棟部・たて樋付)

連棟数	基本部	たて樋位置	配置例	軒樋（たて樋取付）	軒樋（たて樋なし・膜付グロメット）	軒樋 右（たて樋取付）
基本部	●	●	Kのみ	2連棟	●	K+L
3連棟	●	●	K+LN+L	4連棟	●	K+LN+L×2
5連棟	●	●	K+LN×2+L×2			
6連棟	●	●	K+LN×2+L×3			
7連棟	●	●	K+LN×3+L×3			
8連棟	●	●	K+LN×3+L×4			
9連棟	●	●	K+LN×4+L×4			
10連棟	●	●	K+LN×4+L×5			

